

第 1 回策定委員会概要

委員会名：熊野町立地適正化計画策定委員会

日 時：令和 4 年 10 月 7 日（金） 11:00～12:10

会 場：熊野町役場 3 階 301-302 会議室



1. 開会

2. あいさつ

熊野町副町長 岩田秀次

《公務により三村町長欠席のため、岩田副町長が町長メッセージを代読》

- ・第 6 次熊野町総合計画（令和 3 年 3 月）が策定され、総合計画で示す将来像の実現に向けて持続可能なまちづくりを進めている。
- ・令和 4 年度から令和 5 年度の二ヵ年で立地適正化計画を策定し、人口減少、公共交通等の多くの課題に取り組むために、今後のまちづくりのあり方を明確化し、立地適正化計画の政策に基づいた施策を実行することで持続可能なまちづくりをさらに進めていく。
- ・計画策定にあたっては、都市計画の視点だけでなく、人の流れを生み出す公共交通、観光、商業、金融、不動産等、様々な分野との連携が必要である。
- ・各分野に精通した専門の方々との議論を通じて、様々なニーズや新しい生活様式に対応した本当の意味での暮らしやすさ、豊かさなど感じられる、熊野町の地域特性を活かした個性あるまちづくりに繋げていきたい。
- ・この立地適正化計画策定の取組が意義深いものとなるよう、各ご専門の立場から忌憚のないご意見を頂きますよう、よろしく申し上げます。

事務局

《委嘱状の交付・資料の確認》

3. 委員紹介

《事務局より熊野町立地適正化計画策定委員会名簿、配席表に基づき、委員紹介》

- ・宮田委員（熊野町商工会 会長）は欠席。（13 名）
- ・アドバイザーである国土交通省 中国地方整備局 建政部 都市・住宅整備課の矢吹課長は欠席のため、同課の谷本課長補佐が代理により出席。

4. 議事

(1) 熊野町立地適正化計画策定委員会について

事務局

《熊野町立地適正化計画策定委員会設置要綱について資料に基づき説明。》

- ・施策・検討など未確定事項が多いことから、本計画策定委員会は非公開とするが、「町民との共生によるまちづくり」を推進するため、委員会で配布する資料の一部は町ホームページで公表していくことを予定する。

全委員

- ・異議なし。

(2) 会長・副会長の選出

事務局

- ・熊野町立地適正化計画策定委員会設置要綱第 5 条に基づき、会長、副会長を委員の互選によって選出する。会長の推薦はあるか。

光本委員

- ・熊野町都市計画審議会の会長である田中委員（広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授）を推薦する。
- ・立地適正化計画は都市計画マスタープランの高度化版であるが、田中委員は、熊野町都市計画マスタープラン（令和 3 年 3 月）の策定の際にもご尽力を頂いた。

田中委員

- ・会長の委任について了承する。

事務局

- ・副会長の推薦はあるか。

田中会長

- ・立地適正化計画の策定には、公共交通の部分、ネットワークづくりが重要であるため、地域公共交通計画の策定機関である「熊野町地域公共交通活性化協議会」の副会長である神田委員を推薦する。

神田委員

- ・副会長の委任について了承する。

全委員

- ・会長、副会長の選任について、異議なし。

(3) 熊野町立地適正化計画策定体制について

事務局

《熊野町立地適正化計画策定体制について資料に基づき説明。》

全委員

- ・(熊野町立地適正化計画策定体制について) 異議なし。

(4) 熊野町立地適正化計画の策定について

事務局

《熊野町立地適正化計画の策定について資料に基づき説明。》

高井委員

- ・立地適正化計画では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方でまちづくりを進めていくことになる。熊野町は元々、コンパクトなまちであり、コンパクトシティの考え方は、最近では多くの方が認知されている。一方で、ネットワークのまちづくりの意味を再考したい。熊野町でコンパクト・プラス・ネットワークを考えた場合、ネットワークのまちづくりの意味合いが少し弱いのではないか。

田中会長

- ・熊野町におけるコンパクト・プラス・ネットワークの「ネットワーク」の部分の意義とも捉えられえろが、事務局としての考えはいかがか。

事務局

- ・町の考えとしては、熊野町都市計画マスタープランに記載があるように、将来都市構造図として、熊野町役場があるこの辺りの中央地域を「都市拠点」、そこから東部・西部の「地域活動拠点」を繋ぐようなネットワーク等を考えている。

高井委員

- ・他の市町であれば、ネットワークは主に鉄道で、拠点となる駅を中心としたまちづくり、それを補助するものとして路線バスという形になると思うが、熊野町には鉄道がない。路線バスがメインとなる公共交通ネットワークを意図されていると思うが、今後のまちづくりにおいて、この都市計画マスタープランで示すネットワークによりまちづくりを進めた場合、熊野町内の公共交通体系や周辺市町と熊野町を結ぶ公共交通体系がどのように変化していくかなどの説明をしっかりとっていく必要があるのではないか。

田中会長

- ・一般の方がコンパクト・プラス・ネットワークと聞くと、ネットワークという言葉が抽象的でイメージが良くわからないということもあるかと思う。そのあたりの対応もお願いしたい。

事務局

- ・ご意見を踏まえ、しっかりと検討したい。

神田副会長

- ・質問であるが、町民を対象とするまちづくりに関するアンケート調査の実施回数は1回のみか
- ・このアンケート調査の結果をどのように活用し、今後の計画策定における検討において、どのように反映させる意向か。

事務局

- ・立地適正化計画の検討のためのまちづくりに関するアンケート調査の実施は、1回を予定している。
- ・このアンケート調査では、主に都市機能誘導区域や誘導施設などの検討の際の基礎資料として活用していくことを想定している。

神田副会長

- ・少し技術的な話にはなるが、このアンケート調査では選択肢から選んで回答する設問ばかりであり、傾向はつかめるかもしれないが、町民の考える「新しいまちづくりのアイデア」などは把握ができず、そうした部分が計画には反映されないのではないかと危惧している。
- ・例えば、選択式の設問に加え、自由記述でよいので、熊野町が「どんなまちになったら良いか」、「どんな生活ができるまちだったら暮らしやすいか」など、必ずしも数字によらないアイデアベースの意見をアンケート調査の中で伺ってもよいのではないか。
- ・このアンケートの調査票だと、ここにあるものでしか話が進まない。今は今後のまちづくりに向けた立ち上げの段階なので、もう少し視野を広げた方がよいのではないか。
- ・2点目は、全体の検討の視点であるが、熊野は元々コンパクトなまちではあるというご意見があったが、黒瀬（東広島市）や焼山（呉市）、阿戸や矢野（広島市）との関わりなども色々とある。
- ・町内だけでなく、他の町から見た熊野町の位置付けもあるはずなので、そうした広域的な視点についても立地適正化計画の中では上手く取り込むという哲学を持っておいた方がよい。
- ・3点目は、近年だとDXとの関わり、今年度からは、国土交通省の本省内では、GX（グリーン・トランスフォーメース）の実現に向けた取組の制度設計に関する会議なども行われている（GX：まちづくりのグリーン化やグリーンインフラなど）。
- ・コンパクト・プラス・ネットワークという話であるが、このタイミングから検討を始めるということなので、そうしたGXなどの新しいエッセンスも計画の中に取り込めれば良い。
- ・国土交通省の本省では、交通や都市計画に関して、今年度、色々と制度を変えていく検討が行われているので、そうした意識にも目を向けておいた方がよい。

事務局

- ・貴重なご助言を頂いた。是非検討させて頂きたい。

田中会長

- ・調査票の案をみるとターゲットを絞ろうとしているアンケートになっている。
- ・神田委員の意見の通り、幅広く意見を聞いていくことも必要である。
- ・一方で、令和3年3月に策定した都市計画マスタープランで実施したアンケート調査の結果もあるの

で、そうした既存のアンケート調査の結果との関わりも踏まえながら検討していく必要がある。

- ・また、公共交通のネットワークは熊野町の中で閉じているわけではないので、そことの関係についても広い視点を持つことが非常に重要である。
- ・今後のまちづくりにおいては、DX や GX など、新しいことにも意識を向けることも必要である。

高井委員

- ・これまでも住民の意見を聞くということで、色々なアンケート調査を実施しているところであると思うが、そうした既存のアンケート調査の結果ももう少しかみ砕いて、今回実施するアンケート調査の設問設計が本当に良いのかを考えることも重要である。
- ・設問が多くあり盛沢山な調査票ではあるが、過去に実施したアンケート調査でも色々聞いてるので、それらも参考になると思う。
- ・広域的な視点については、熊野町はただの小さい町ではなく、広島市や東広島市、呉市など広域的な関係、枠組みの中にあるのが特徴であるので、そうした広域的な枠組みの中での熊野町のあり方についても把握して、計画に反映していく方が良い。

事務局

- ・ご意見を踏まえ、広域な視点に立って検討したい。

田中会長

- ・熊野町では、これまで何年かの間にも様々なアンケート調査を実施されている。そうした調査結果も加えて、立地適正化の検討において活かしていければよい。

廣中委員

- ・広島県の都市計画課では、県内市町の都市計画マスタープランや立地適正化計画の策定の支援を所管している。現在、県内 9 市町が既に立地適正化計画を策定済みであり、現在、県内の 2 市 1 町※（※1 町：熊野町）が策定に向けた検討を進めている。
- ・これからの立地適正化計画を考える上では、都市機能の充実・配置が重要である。立地適正化計画で進めるまちづくりについて、皆が関心をもって取り組むためにも、広く町民の方々からのご意見を伺いながら、町議会においても、様々な議論を巻き起こしながら、そうした多くの方のご意見を計画に反映して頂くことを期待している。
- ・県の立場としても、そうしたことに対しては、できる限り、積極的に支援を実施していきたい。
- ・県としても是非一緒に計画検討を進めていきたいのでよろしく願います。

事務局

- ・今後も色々のご相談をさせて頂きたい。

山根委員

- ・熊野町都市計画マスタープランでは、目標年度について「中長期的なまちづくりの方向性を視野に入れつつ、概ね 20 年後の令和 22 年（2040 年）を展望しつつ、10 年後の令和 12 年（2030 年）まで」と記載されている。

- ・この一部である立地適正化計画も、今から、10年、20年という長いスパンでのアクションプランであることを踏まえると、実施していく施策などは、5年単位で区切るなど、時間軸の概念を取り入れて計画立てしていく必要がある。
- ・一気に進めるのではなく、ある程度、段階を踏みながら進めていくことがまちづくりとしては重要であり、時間軸を意識することによって様々な物事も見やすくなると思う。それが熊野町の公共交通の将来像の実現にも繋がっていく。

事務局

- ・時間軸について、計画では見える形で進めていきたい。

栗原委員

- ・熊野町は役場を中心に、中央・東部・西部と3つの地域に分かれており、それぞれの地域に拠点となる便利な場所にしていこうという考え方であったと思う。
- ・資料3の8頁に「強制的な集約」ではなく「誘導による集約」とあり、「20年先を見据えて」ということだった。その一方で、拠点から離れた場所の集落では、水道が未だに繋がっていない地域もある状況である。「強制的ではない誘導による集約」といわれても、そうした地域に今住まわれている人々が今後どうなっていくのかが気になる。
- ・そもそも20年後となると、そうした地域に住まわれている高齢者の方々はやがて高齢者施設に入居され、その子供達も町外に出て行ったまま戻ってこない状況の中で、やがてその集落が「消滅」という状況で、結果的には自然と「集約」に繋がるということになると思う。
- ・また、現状では東部地域の交通の便が悪い。先日の公共交通の会議では、西部地域の平谷地区でも交通の便が悪いという話題もあった。
- ・一方で、何年か先のこと、広域的に考えてみると、熊野町が広島市地域の経済圏の中にさらに巻き込まれていくことも考えられるし、東広島市がさらに発展していけば、東部地域は東広島市の経済圏の中に入って発展していく可能性もある。
- ・今は、新宮・初神の交通利便性が悪いといわれている。萩原の道上地区も便利が悪いといわれている。一方で、素人考えではあるが、今後、県道矢野安浦線（熊野バイパス）が整備されると、東広島地域の経済圏の影響を強く受けるので、むしろそうした場所のほうが便利で良くなっていくようなこともあるのではないかと感じている。
- ・先のこと、将来を見通すのは難しいかもしれないが、将来を見据えた視点も必要ではないか。

事務局

- ・1点目は、長い目で見ると高齢化が進み、その子供達も戻ってこないという状況はあるかもしれない。一方で、誘導に関しては、どちらかといえば、災害リスク（土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域など）が高い場所に居住されている方々に対しては、なんらかのインセンティブを与えることで、安全な場所に住み替えて頂くようなことも考えていきたいという趣旨である。

栗原委員

- ・誘導は行政サービスも含めての誘導ということであると思うので、そうした地域では、将来的には行政

- サービスを減らしていくという理解でよいか。誘導していく場所が見えてくるのであれば、行政としてそうした場所（非集約エリア）にはあまり行政サービスをつぎ込みたくないということではないのか。
- ・実際問題としてそうしなければ、誘導はできないのではないかと感じているので、「強制ではない誘導」と言われても、半分強制的であると見えてしまう部分があるかもしれない。

事務局

- ・熊野町の場合は、拠点として誘導を図っていきたい場所についても、自然災害により被害を受ける危険性がある場所がある。しかしながら、災害による危険性がある場所に新たな居住を呼び込むようなことは、今後のまちづくりを考えていくと好ましくない。
- ・誘導するエリアから外れた場所の行政サービスが低下するということは、今後10年、20年という期間ではなく、もう少し長いスパンとなると考えている。10年、20年で行政サービスを下げていくようなことは町としては考えていない。

田中会長

- ・誘導ということにはかなり幅があり、熊野町の場合は、誘導するエリアを絞って、狭いエリアにもの凄く誘導していくというイメージではないと思う。災害の危険性を考慮して、新しい居住などは、危険な場所を避けていくということかと思う。
- ・2点目の将来どのようなようになるのかを意識してということ、限界はあると思うが、将来のまちづくりのことを考えていく上ではとても大切なことである。

まとめ

田中会長

- ・本日の議論では、主に次の1)～4)の意見があった。

1) 今後のまちづくりに関するアンケート調査について

- ・これまでに町が実施してきたアンケートとの関係を少し整理したほうが良いのではないか。
- ・立地適正化、都市機能の集約を考えた場合、集約拠点をいかに魅力的なものとしていくかがポイントであるが、（自由記述などにより）もう少し幅広い意見、まちづくりに関するアイデアなどを聞いておくほうがよい。

2) コンパクト・プラス・ネットワークのネットワークについて

- ・ネットワークの部分について、具体的なイメージがわくと町民にも理解してもらいやすい。ネットワークの将来像をもう少しイメージしていくことが必要。
- ・熊野町の交通ネットワークは熊野町内だけで閉じているものではないので、熊野町内だけでなく、広域的な視点でネットワークを考えていくことが必要。

3) 計画検討の進め方（1）広く色々な方々と対話して作成することが必要

- ・アンケート調査もその手段の一つではあるが、この立地適正化計画の策定では、様々な立場の方との対話を進め、広く議論していくことが重要である。
- ・計画策定では、そうした手順をきちんと踏んでいくことで、この立地適正化計画が将来のまちづくりに

において、実行性が高い生きた計画となってくる。

4) 計画検討の進め方（2）将来的な視点、時間軸を考えながらデザインすること

- ・空間軸だけでなく、将来的な視点、時間軸もしっかりと意識すること。熊野町だけでなく、社会全体の情勢など、周りの状況などもしっかりと捉えて、時間軸を意識しながら立地適正化計画の取組を上手くデザインしていく必要がある。

4. その他

事務局

- ・次回会議（第2回）は12月下旬以降を予定する。

田中会長

- ・本日の議事は以上とする。

5. 閉会

事務局

- ・以上で、第1回熊野町立地適正化計画策定委員会を終了する。